



機関紙
「フィトンチッド」第12号
2025年2月発行

総天然色のNPO活動写真集！「かねやま電雪HPから」

☆金山町産業まつり☆



☆畑の応援団と収穫祭☆



☆☆主な活動等☆☆

8月26日 里山便(じゃが芋)を仙台市の「ほっと亭」に贈答しました。後日NPOかねやま電雪に謝礼金5千円の振込みがありました。

9月29日 自然に親しむ活動(栗拾い・芋煮会)を開催した。

10月5日 金山町町制施行100周年記念式典に招待があり参加しました。

10月13日 金山町産業まつりに出店参加しました。

10月19日 「エコカップやまがた」活動事例発表会に水戸部理事が参加発表しました。

10月27日 新会員入会!! 五十嵐さん(地元町議)です。

10月28日 「かねやま小水力発電推進協議会」が発足しました!

11月25日 去年に続き金山中学校一年生を対象に水戸部理事による総合学習「再エネについて」の授業を教室の内外で実施!

11月29日 「かねやま小水力発電推進協議会」の研修会に参加しました。

12月29日 第3回理事会を開催しました。



☆☆審議した今年度の事業活動等☆☆

- ① 大清水沢小水力発電計画への取り組みについて
- ② 金山町まちおこし塾への協力について
- ③ 金山町ゼロカーボン推進地域協議会について
- ④ 金山町のゼロカーボンを考える会の見学研修会について
- ⑤ かねやま小水力発電推進協議会によるオンライン学習会について

☆☆お昼には畑の応援団と合同で忘年会を開催しました。☆☆

☆10月19日「エコカップやまがた」活動事例発表会☆



☆11月25日「総合学習・再エネについて」金山中学校一年生☆



☆11月29日「かねやま小水力発電推進協議会・研修会」秋田県田沢湖町☆



☆12月29日「第3回理事会」☆



☆「畑の応援団」と合同忘年会☆



これからの伝説! 金山町内外みんなでゼロカーボンと再生可能エネルギーを推進する!



特定非営利活動法人
かねやま電雪

999-5401 山形県最上郡金山町大字有屋312
事務局 Tel 080-2303-3763(小沼・丹・五十嵐)
mail kaneyama.densetu@gmail.com
http://kaneyamadensetu.kirakirahatuden.com/



「かねやま小水力発電推進協議会」発足と今後の課題について NPOかねやま電雪理事 水戸部秀利

「NPOかねやま電雪」の小水力発電の検討

2018年に設立したNPOかねやま電雪は、目標に金山町の自然を活かす活動を掲げ、雪室実験やソーラーシェアリング発電に取り組みながら、神室山系から流下する金山川とその支流や農業用水について、水力発電として活用の可能性を専門家の指導を受けながら調査研究してきました。その中で神室スキー場脇の大清水沢が一つの候補になっていました。

金山町の「ゼロカーボン宣言」とその政策化

地球温暖化による気候危機が迫る中、2022年11月3日金山町はゼロカーボン宣言をして、2024年には、環境省の補助を受け脱炭素実行計画策定に着手しました。その中では町の資源である森林や太陽光や水を利用した再生可能エネルギーを創出することが、政策の柱の一つになりました。それをどのように具体化するかが今後の課題になっています。

「山形県環境エネルギー部エネルギー政策推進課」の支援

2023年末、小水力発電の候補となっていた大清水沢について、専門家から実現可能性が示唆され、それを県の方にも報告相談する中、2024年、県としても支援する意向が示され、金山町役場とも相談し、その実現に向けて推進体制を作ることになりました。

「かねやま小水力発電推進協議会」の発足

有屋地域の水利組合や地区代表者、NPOかねやま電雪関係者、金山町の総合政策課など担当者、山形県エネルギー政策課担当、さらに小水力専門家としてもがみ自然エネルギー株式会社が加わり、十数名からなる「かねやま小水力発電推進協議会」が結成され、2024年10月28日に第1回協議会が開催されました。代表はNPOかねやま電雪の水戸部が担うことになりました。

早速、本協議会の主催で、2024年11月29日に秋田県仙北市の小野草発電所への視察研修を行い、小水力発電による地域起こしの事例を学ぶために2025年1月24日に岐阜県石徹白の平野氏の講演会（右記）を行い、2月7日には佐賀県松隈の多良氏によるオンライン講演会を行う予定です。

今後の課題

小水力発電所の建設にはたくさんの段取りを踏まなければなりません。1年間の水量測定、現地の測量と基本設計、河川法・砂防法関連の行政手続き、実施工事計画など建設までは4～5年を要します。このような測定・測量、諸手続きには公的補助もありますが経費が発生します。建設工事は発電機本体も含めて1億近い資金が必要になります。なお、この規模の小水力発電による売電収益は年間800～1000万（20年間固定買取制度）が見込めます。このような見通しのもとで、資金計画を立てていくことになります。

NPOかねやま電雪としては、この小水力発電事業について事業として成り立つ見通しがあれば主体的に関わりたと思っています。そして建設資金については、金融機関に頼るだけでなく、ゼロカーボンを実現するための「自分たちの発電所」にしたいと思う多くの住民の協力で集めていきたいと考えています。発電所はその後も30年40年と稼働し、地域の財産となります。

かねやま小水力発電推進協議会 企画

小水力発電による 地域起こしの事例を学ぶ



オンライン学習会

企画1 「岐阜県石徹白の事例から」

講師：平野彰英氏

石徹白農業用水農業協同組合 参事

日時：2025年1月24日（金） 13:30～15:30

場所：金山町役場 4階大会議室

住民が農協設立、売電へ



収益で農産物加工や開発

石徹白農業用水農業協同組合は、小水力発電による収益を、農産物の加工や開発に活用し、地域の活性化を図っている。組合員は、地元産の農産物を加工し、高付加価値の製品を開発している。また、発電事業の収益を、地域のインフラ整備や環境改善に活用している。住民は、農協設立を通じて、地域の未来を共に築いている。

石徹白発電で農村維持

○1月24日（金）午後 かねやま小水力発電推進協議会主催で、役場で小水力発電の学習会を行いました。オンラインで講師は岐阜県石徹白の平野氏です。参加者は20名を超え、水量測定から水利権の各論から、地域おこしの課題まで幅広い学習会になりました。地道な活動を通じて、一時4名まで減った村の小学生児童数が10年で12名まで増加したとのことです。



○1月25日（土）金山町のゼロカーボンを考える会企画で、隣の真室川町にある庄司製材所を訪問見学しました。森林組合長含め10名の参加でした。バイオマスの暖かさを感じながら見学しました。終了後、廃校になった旧大滝小学校を改修した食堂のボリュームたっぷりの「牛丼」をごちそうになりました。庄司社長はS23生まれの団塊世代ですが、その発想の自由度と行動力には圧倒されました。森林と人をつなぎながら地域を守るすばらしい哲学の持ち主です。

